



記録で記憶に残す、高校入学時からの辞書指導

——『ジーニアス英和辞典 第4版』を使って

大下晴美



本校では入学時に普通科の生徒全員に『ジーニアス英和辞典』を購入させている。これまでも良質の語法解説と多彩な用例が掲載されているという理由で、第3版を学校指定辞書としてきた。今回改訂された第4版はそのような長所を維持しながら、さらに「類語比較」欄、「文法」欄などの新たな項目が追加されており、採択の際、英語科教員全員一致で『ジーニアス英和辞典 第4版』を継続して学校指定辞書とすることが決定した。

■学校指定辞書設立の背景

辞書を学校指定で生徒全員に購入させることには賛否両論があるだろう。しかし、中学校の教科書には巻末に単語リストが掲載されており、多くの生徒が高校に入学するまで英語の学習において辞書を使用するという習慣がない。そのような生徒達が推薦辞書の中から辞書を選ぶ理由は、「一番薄かった（軽かった）から」とか、「カラフルだったから」であり、その内容を吟味して選ぶということはまずない。また、最近では電子辞書の普及により、「紙の辞書を必ず購入する必要があるのか」という問い合わせもある。しかしその際、私は「英語力を伸ばしたいと思うのであれば、紙の辞書を購入してください」と返答している。その理由については、後述することとする。

■オリエンテーションでの辞書指導

高等学校に入学して最初の授業で実施されるオリエンテーションで最も重要なことは、辞書指導である。これまで教科書の巻末の単語リストに依

存してきた生徒にとって、「どのように新出単語の意味を調べればいいのか」が高校での英語学習の最初の疑問であるだろう。そこで、オリエンテーションの際に、私は英語学習法5カ条を配布し、指導している。その中の1項目に辞書の使用に関する次のような項目がある。

4 辞書で調べよう！

辞書は、英語を学習する際の必需品である。君たちにとって、英語は未知との遭遇である。その未知に遭遇した際に、君たちの強い味方になってくれるのが、辞書である。高校でも、中学校のように、教科書の後ろに新出語の意味を記載してくれないかな、とぼやいている人がいるとすれば、それはあまりに他力本願的な学習の仕方ではないだろうか。必要な情報は自分で収集すること、高校ではこれが必要なことなのである。

それでは、上手に辞書を利用するための基本的なポイントをおさえておこう！

- ① 新出単語が出るたびに、文中ではどの意味が適切なのか、例文を参考にしながら判断する。
- ② 既知の単語も文の中で意味がうまくとれない時は、調べてみる。
- ③ 調べた単語・熟語・例文に印をつけ、辞書引きの履歴をつくる。

この中で最も強調しているのが、「例文を参考にしながら」という点と「辞書引きの履歴をつく



る」という点である。

■Only One の My Dictionary

オリエンテーションの最後は、英語の授業では必ず辞書を携帯することという指示と、予習の範囲の提示で締めくくる。そして、次の時間からが本格的な辞書指導の始まりである。

2 時間目の授業では、オリエンテーションでの指示通りにほとんどの生徒が自分の調べた単語・熟語・例文に印をつけてくる。その授業の中で、生徒があまり理解できなかったところを捉え、その語を調べた際に、どの意味や例文に印をつけているのかチェックするのである。そして、その文の解釈としては不適切なものに印をつけている生徒に対して、なぜそこに印をつけたのかという問いを発し、本文と例文との類似性、文脈の中での適切な語の意味の選び方などを用例や語法などを「読む」ことによって考えさせていくのである。その際、ポイントなどを辞書にそのまま記入するように指示している。そうすることによって、次に同じ語を引いた時に、より早く適切な意味を見つけることができるようになるからである。このように、毎時間誤答が多かった問題、解釈が難しい問題などにぶつかった際には、その場で辞書を引かせ、印をつけさせ、記入させるのである。はじめのうちは、一番目に掲載されている意味や例文にしか注目しなかった生徒も、次第に 1 度引いたらその語に関する記述すべてに目を通すようになる。また、実際に何度も引かせ、印をつけさせることによって、多く使われる意味や用法などが一目で分かるようになるのである。

1～2 ヶ月もすると、生徒の中には、重要度によって線の色分けをしたり、自分が間違った問題を例文として付箋に書いて貼りつけたりする者がでてくる。そのような工夫をし始めるようになれば、後は自発的に辞書を活用するようになる。そして、自分だけのオリジナル辞書に愛着すら感じるようになるのだ。さらに、それはどんな市販の

参考書よりも詳しく、最も自分の苦手な分野を解説してくれる自分だけのオリジナルの参考書にもなるのである。また、このような履歴が残ることによって、生徒は自分がどれだけその語に関する記述を読んできたかを知ることができる。すでに何度も辞書を引き、印をつけてきた語に対しては、「また引いてしまった」と自分に憤りを感じるようである。そのため、その悔しさが語彙や用法などの記憶の促進につながっているように思われる。

電子辞書は確かに持ち運びが便利で、携帯電話のメール操作に長けている生徒たちにとっては、紙の辞書よりも調べる時間が短縮できるため、海外旅行などで即時の対応が必要な場合は、非常に便利である。しかし、電子辞書にヒストリー機能があり、ある一定の期間の履歴を残すことができて、高校 3 年間のすべての履歴を残すことは不可能である。また、紙の辞書のように、他の例文や授業での解説を付け加えたりすることもできない。前述で、「英語力を伸ばしたいと思うのであれば、紙の辞書を購入してください」という理由はここにあるのだ。

■おわりに

1 年も経つと、ほとんどの生徒の辞書は購入した際に付いていたケースに入らないほど、ページが膨れ上がっている。その厚みこそがこれまでの努力の結晶であり、生徒が自信を持つきっかけになっていると考えている。

入学時に『ジーニアス英和辞典 第 3 版』を購入した 2・3 年生の中には、現 1 年生の使用している第 4 版と自分たちがこれまでに使っていた第 3 版を丹念に見比べ、こちらの方が見やすいと新たに第 4 版を購入した者も多い。辞書に対してそのような興味や愛着を示すこと自体が、入学時からの成長の証であり、非常に喜ばしく感じている。

(おおした はるみ・福岡工業大学附属城東高等学校教諭)